

## 転作田における子実用トウモロコシ栽培技術 (第1報)

### 1 背景・目的

近年、濃厚飼料の主原料である子実用トウモロコシの国内生産が注目され、水田を活用した転作作物としても期待されている。しかし、北陸地域では子実用トウモロコシの栽培実績がほとんどない。そこで、本県での子実用トウモロコシの栽培に適した品種及び栽培技術を検討する。

### 2 技術のポイント

(1) 栽培技術 (図1) として、

- ① 湿害対策: 圃場内に溝切を行う。
- ② 栽植密度: 欠株を考慮し、適正栽植密度より10%多く播種する。
- ③ 虫害対策: 播種後にネキリムシ対策、6月から7月(絹糸抽出期)にアワノメイガ被害が甚大な場合は防除が必要である。

(2) 早生品種 (RM100<sup>\*</sup>) と中晩生品種 (RM125<sup>\*</sup>) を5月下旬に播種し、比較した結果、早生品種は中晩生品種に比べて絹糸抽出が早く、子実の乾物収量は同等、かつ乾物率が高いことから、本県においては、早生品種 (RM100<sup>\*</sup>) の利用が適している (表、図2)。

(3) 収穫は、子実の乾物率が70%以上になるまで立毛乾燥し、普通型コンバインに専用アタッチメントを装着して行うことで、トウモロコシ子実のみの収穫が可能である (写真)。

<sup>\*</sup>RM (相対熟度): 早晩性を示す指標。100~早生、115~中生、135~晩生。

	~4月	5月	6月	7月	8月	9月
トウモロコシ生育ステージ	ネキリムシ対策	発芽	7-8葉期	絹糸抽出	黄熟期	子実水分30%以下
栽培管理	圃場整備 ・堆肥散布 ・耕起 ・溝切 等	播種・施肥 除草剤① 土壌処理 ※発芽前	除草剤② 茎葉処理 ※5-6葉期	アワノメイガ対策		収穫



図1. 早生品種 (RM100) の子実用トウモロコシ栽培スケジュール

表. 生育調査結果

品種	早生品種 (RM100)	中晩生品種 (RM125)
播種日	5/26	5/23
絹糸抽出	7/19	7/28
月/日		
播種後日数	54	66

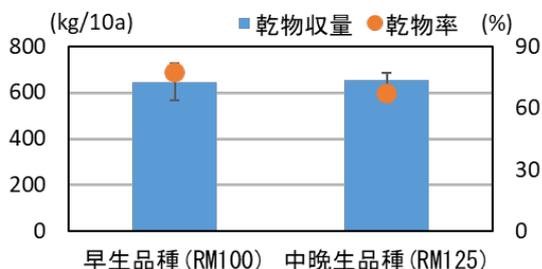


図2. 絹糸抽出60日後の乾物収量、乾物率

### 3 成果の活用と残された問題点

台風被害や収穫時の天候不順を回避するため、収穫時期の前倒しが期待できる4月播種の栽培体系について検討する。

問合せ先: 資源安全部 TEL 0767-28-2284  
担当者: 寺田詩織